

## 関東森林研究 第 72 巻 投稿チェック表

投稿の際に提出していただく必要はありませんが、原稿受付が円滑の進むよう、投稿前の確認に使用されることをお勧めします。

### 原稿用紙と一般的な注意事項

- 「原稿テンプレート 2020 年度版」を用いて作成した原稿である。
- 原稿が規定の枚数である。
- A 4 版 (縦長, 横書) 用紙上に, 余白を上下約 30mm, 左右約 25mm とり, 1 行 25 字 (全角換算), 45 行とし, 縦 2 段組となっている。要旨は段組とせず, 1 行 52 文字となっている。
- 本文および要旨の文字は, 和文では MS 明朝体, 英文では Times New Roman を基本とし, 9 ポイントで記載されている。
- 和文の場合, ひらがな, 左横書き, 新仮名遣いとし, 学術用語以外は常用漢字を用いている。
- 要旨および本文中の句読点は, 「。」「,」, 引用文献中は「.」「,」(いずれも全角)を用いている。
- 図, 表中の文字を除いて, 和文および 1 桁の数字, 記号として使う欧語は全角を, 2 桁以上の数字および欧語, 単位は半角を用いている。
- 学名はイタリック体(斜体)となっている。
- 図, 表を含めて原稿枠(余白は上下 30mm, 左右 25mm)をはみ出していない。

### 表題, 著者および所属機関名 (和文・英文)

- 継続研究 (I), (II) にしないで, 個々の論文は独立した表題になっている。
- 表題および著者名, 所属機関名等の書き方は「原稿テンプレート 2020 年度版」になっている。

### 要旨とキーワード

- 論文には 350 字(速報は 250 字)以内の和文要旨がついている。
- 論文には 200 語以内の英文要旨がついている。
- 要旨中で図・表・文献を引用していない。
- 内容を表すキーワード(5 語以内)がついている。論文では英キーワードもついている。
- 要旨とキーワードの間は 1 行あけていない。
- キーワードと本文の間は 1 行あけていない。

## 本文

- 大見出しは、I はじめに、II 調査地の概況（材料と方法、調査方法）、III 結果と考察、IV おわりに、のようにローマ数字（ピリオドなし）をつけ、太字になっている。文章は行をかえて書きはじめています。
- 中見出しは1コマ下げ、1. 2. のように算用数字（ピリオドあり、ピリオドは全角）をつけ、太字になっている。
- それ以下の見出しは適宜、適切に秩序だてて表記されている。
- 文献の引用は、引用文献番号を（1）、（2,3）のように記述し、番号はイタリック体(斜体)になっている。

## 数式

- 数式は本文途中に入れずに別行とし、1字（全角換算）分下げて書かれている。
- 数式の変数はイタリック体(斜体)、単位は立体とし、数式が複数行にわたる場合でも混乱が生じないようにしている。

## 引用文献

- 引用文献は著者名のアルファベット順（引用順は認めない）に記載し、頭に括弧付きで文献番号をつけ、文献ごとに行をかえてある。文献番号は立体である。
- 英文の著者名は頭文字のみ大文字で記載する。（例：Fisher JD, Horton M, Okuda S）
- 誌名の略記法は和文、欧文ともに慣例（関東森林研究、日本森林学会誌等）になっている。
- 引用文献の巻、号については、巻に通しページがある場合は巻のみとし、通しページがないときは巻、号を併記している。単行本の場合は総ページもしくは引用ページと、出版名、出版社の所在都市を記載してある。

## 図および表

- 図・表は本文の最後にまとめて配置するか、本文中の適当な位置に挿入されている。文中に図表を挿入する場合は、図表があまり小さくならないようになっている。
- 図は印刷時に鮮明であるとともに、モノクロ印刷でも判読できる。
- 図の表題は図の下に、表の表題は表の上に、図-1. 表-1. のように見出し（ピリオドあり、ピリオドは半角）をつけ、1字（全角換算）分あけて続けてある。図・表の表題の末尾には句読点をついていない。
- 表題の文字の大きさは本文と同じであり、図・表の文字・数字の大きさは、本文の 2/3 より大きい。

コメントの追加 [MOU1]: 投稿チェック表では「英文著者名は全て大文字で記載」と書かれているので、投稿チェック表の修正が必要です。